

発行日 2007年10月15日  
 発行：盲人情報文化センター録音製作係  
 〒542-0071 大阪市中央区道頓堀1丁目東3番23号  
 道頓堀千鳥ビル  
 電話06-6211-0910(録音製作)

聴いてわかる図書を作るために (第18回)



## 外国語、参考文献について

久保 洋子

世界史の本、政治、経済の本などでは、参考文献として、外国語の文献があげられていることがあります。これらの文献は、本文の内容の出典であったり、内容をよりよく理解するためのものであったりするわけで、原本通りという意味では、全部きちんと読むべきであることはむろんです。しかし、音声訳者が外国語に通じているとはかぎりません。英語は出来る人も多いのですが、その他の言語をきちんと読める人はなかなかいません。

また、文献を読んだとしても外国語の文献は音声訳されたものはなく、実際に参考にするには簡単ではありません。

一冊の本でも利用のされ方は様々です。内容を一応知りたいという人から研究論文の資料として読む人までいろいろな人がいます。それらの希望のすべににに応じられる録音図書をつくるのは容易ではありません。

ではどうするのか？ 基本的には外国語の文献は省略します。その時、原本には外国語の文献が掲載されているのを断った上で省略のコメントを入れて

います。必要な利用者にはリクエストで対応していただきます。

以上は、原本の最後や章の終わりなどにある参考文献のことです。本文中に挿入されているものについてはこの限りではありません。省略できないことも多いと思います。個別に考えて判断していきましょう。

又、文献が省略形 (ex. J. Chem. Phys.) で書かれていることもあります。漢字の省略形の場合は文字を見れば少しは想像がつかますがアルファベットの頭文字を並べたものはなかなかわかりません。どうしても必要であれば図書館にリファレンスすれば調べてもらうこともできます。

ただ、この、わからないのは文字を見る人も同じです。その本の中にフルネームがでていれば置きかえて読んでください。出ていない場合は省略形のまま読みます。漢字の時はフルネームが確かであれば文字の説明をしてもいいと思います。

ここでも録音図書は私たちが活字を見て得られる情報を正しく伝えるという原則を思い出してください。

### 『自宅録音チーム』勉強会

13日(火) 『マトリョーシカ』 10時～12時

21日(水) 『はなみずき』 1時半～3時半

22日(木) 『二十四の瞳』 10時～12時

### 『プライベートチーム定例勉強会』

14日(水) 1時半～3時

### 『橋本勝利のフォローアップ講座』

9日(金) 1時～3時

14日(水) 1時～3時

### 『スタジオ曜日別チーム』勉強会

26日(月) 『月曜チーム』 ※ 予定

27日(火) 『火曜チーム』

28日(水) 『水曜チーム』

22日(木) 『木曜チーム』

16日(金) 『金曜チーム』

24日(土) 『土曜チーム』

十月録音製作予定

### 『専門図書音訳チーム』勉強会

10日(土) 『古典チーム』 1時～3時

16日(金) 『東洋医学チーム』 3時～5時

21日(水) 『理数チーム』 10時半～12時

24日(土) 『パソコンチーム』 1時半～4時

30日(金) 『英語チーム』 10時半～3時

### 『専門図書音訳講座 (全5回)』

『パソコンコース』

11月19日(月)スタート 午後1時～3時



## 校正について その1

### 校正のとき何を基準に聞いていますか？

大林 緑

今回から、「校正について」というシリーズで、大林緑さんにお願ひしました。このシリーズは校正者だけでなく、音訳者も編集者も目を通し、自分の認識と違っていないか確認していきましょう。

**録** 音図書製作は館が製作を決定した本を音声訳者・校正者・編集者が共同して作り上げていく作業です。

しかし今まで新人であれ活動中の方々であれ、講習会はほとんどが音声訳者を対象とした、音声訳に際しての基本や処理（配慮）などの内容で行われて来ました。音声訳を始める前にどこに注意しなければいけないとか、録音方法・調査・注・カッコ・字・ルビ・図・表・写真・などなどです。

音声訳者はこれらを充分検討して下準備し、録音したあと校正を依頼します。

校正者はこれらをどのような聞き方で校正しているのでしょうか？

音声訳者と同じような見方で、原本を見て音を聞いて校正してはいないのでしょうか？

実は校正者には音声訳者とはまた違った見方・聞き方が求められるのです。それは目で字を追いついて誤りを確かめながらも、その間「耳で読書をする」こと、利用者の立場に立って聞いてみる事なのです。

原本の内容が聞いて分かるか、デイジー図書として利用はどうか、処理や配慮は適切か、どこが分かりにくいといったことはそうすることによって、よりはっきり気付くのです。

このことは校正結果に大きく影響し、ひいては利用者にとってのよりよい録音図書へと繋がっていきます。

校正は講習会で何回か習ったからうまく出来るといったものではありません。音声訳の基本をよく理解した上で、原本を見ながら耳で校正しましょう。

録音図書製作の基本は

1. 原本に忠実に、かつ原本の内容が聞いて分かるように、必要最小限の処理や配慮をして音声化する。
2. 館の名において利用者に提供出来るきちんとした録音図書を製作する。

と言えます。

音声訳の講習会で行われる内容を、今度は校正の側から考えてみたいと思います。

次回は一冊の本の聞き始めから、校正のポイントを順にあげてみましょう。

## 読者からの便り

2007.9.23

谷口伊都子 様

藤野 高明

前略 お元気ですか。

あなたのお声と、何日も何日も一緒に過ごしておりました。すっかり親しくなりました。あなたが録音してくださった「憲法は、政府に対する命令である」というダグラス・ラミスさんのデイジー図書を、今日最終的に聞き終わりました。できるだけ簡略に取ったつむりのノートも点字で14ページになりました。昨年八月に初版が出た本を今年の二月には、早々と音訳完成して下さったのですね。本当にありがとうございました。とってもすばらしい本でした。やや、「理屈っぽく」、反復しないと理解できない箇所もありましたが、実にみごとな、説得力のある本でした。

この本を歯切れ良く、すばらしく明快に音訳して下さったあなたに、心から感謝しています。私は30年間盲学校で社会科教員として働いてきましたが、目から鱗の落ちるような箇所がいくつも出てきました。

私も憲法を護る立場から、特に9条や25条を実現する立場から、発言したり運動に参加することも多いのですが、そうした自分の生き方に大きな確信を与えてくれる一冊でした。音訳者の谷口伊都子さんに、どうしてもひと言お礼が言いたくて、手紙を書きました。かかわって下さった校正者の大西さん、杉野さん、浅野さん、編集者の郡さんたちにもどうかよろしくお伝えください。ありがとうございました。

## 専門図書音訳チーム 英語チーム

**英** 語チームは発足以来17年程になるでしょうか。最初は情文のメンバーのみで、英語に関連のある読み物の他、リクエストの大学入試問題等を家庭録音で音訳していました。その後近視情協加盟の6つの図書館からのボランティアも加わって、現在の英語チームを構成しています。メンバーは17名。毎月共同制作した「英語よもやま通信」を発行しています。その他数十冊のバイリンガルブックスシリーズ（講談社刊）の音訳も手がけ、現在も継続して製作中です。毎月第4金曜日に例会をもっています。

「英語よもやま通信」は英語に関連のあるさまざまなジャンルの読み物—最新のアメリカ、イギリス情報、ニュースに頻出する英語の言葉、詩、歌、人物紹介、世界の国々の珍しい建物や庭園の紹介、連載の読み物、英語関連の出版物の紹介等—を取り上

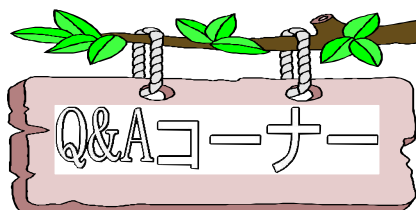
げ、常に時宜にかなったもの、聴き手に興味を感じてもらえるトピックを提供できるよう、皆で知恵をしばっています。歌のコーナーでは、懐かしいオールデイズのものから最新の曲まで、素晴らしいバックミュージックにのせて歌詞を紹介しています。

月1回の例会は和やかに、でも“けんけんがくがく”で4時間ほどがあつという間に終わってしまいます。私たちのグループでは、英語に関する録音図書作りに意欲のある方の参加をお待ちしています。興味のある方、是非例会をのぞいてみてください。

(志水 記)



第4金曜、定例勉強会



い。

「Recdia」のソフトが安くなったと聞きました。詳しいことを教えてください。



この度、サン・データセンターから「Recdia」の値下げの連絡が入っています。これまで12,000円で販売されていた「Recdia」は6000円と、これまでの半額になっています。デイジー編集も可能な「RecdiaPlus」は19800円から9800円になっています。

今年7月1日より点字図書館などの視覚障害者情報提供施設等が行う録音図書の自動公衆送信が著作権フリーになったことで、今後の利用が高まることを予想し価格を改定したということです。

また、これまで購入したところには特典として新たに1ライセンスを進呈するとしています。さらに、ソフトの購入者には、インターネット回線を利用したデータの送信サービスを無料で行うそうです。

問い合わせ先 サン・データセンター  
電話046-824-8414

受付時間 9:00~17:30

土曜、日曜、祝日は除く

## 各種講座のお知らせ



### 専門図書音訳講座

## パソコンコース受付中

専門図書音訳講座パソコンコースが下記の日程でスタートします。受講希望者は係までお申し出ください。盲人情報文化センター推薦で受講できます。試験・費用ともありません。

#### ●「パソコンコース」(全5回)

講師 中本 和代氏

(近畿視情協パソコンチームリーダー)

11月19日(月)～12月17日(月)

午後1時～3時

### 『フォローアップ講座』のご案内

橋本勝利氏の「フォローアップ講座」後期が10月からスタートしています。第2水曜日、第2金曜日の各コースとも少し余裕があります。盲人情報文化センターの音訳者は受講を希望者される方は係までお申し出ください。

#### 後期講座の日程

2007年11月9日(金)／13日(水)

12月12日(水)／14日(金)

2008年1月9日(水)／11日(金)

2月8日(金)／13日(水)

3月12日(水)／14日(金)

### 編集者のみなさんへ

9月10日に実施した編集者のフォローアップ講座(全2回)には39の方が受講されました。講師の大林緑さんに感謝です。

さて、デイジー図書の完成作品は、最終チェックをして何も問題が無ければ受け入れています。しかし、最終のチェックで、いろいろミスが発見されます。今回は最終チェックで出てきたケースを紹介し、編集段階で注意していただければと思います。

【ケース1】 書名と副書名が1フレーズになっている。または、著者名まで1フレーズになっている。

【ケース2】 目次の項目が1フレーズになっていない。

以上の例は、編集者の自己チェック表でしっかり確認することで防げるミスです。必ず自己チェック表で確認して提出しましょう。

【ケース3】 編集者の最終訂正でページがずれる

このケースは編集者やデイジー校正で訂正したところに、たまたまページチェックが入っていて、貼り替えた際にページチェックを入れるのを忘れたようです。特にページの変わり目などの訂正作業の時は注意しましょう。

### 自宅編集者・プライベート録音のみなさんへ

「PRS-プロ」が2007年10月にさらにバージョンアップしました。バージョンアップCD版を用意していますので係までお尋ね下さい。今回のバージョンは「Ver. 2.04.00.00」になります。

## 係からのお知らせ



### 「ページホルダー」の購入先は?

先月号で紹介しました、「ページホルダー」について「どこで購入できるのか」といった問い合わせが多数寄せられましたので紹介します。

大阪では心斎橋の三木楽器(06-6251-4592)、ヤマハ楽器(06-6211-8333)で購入できるそうです。楽器店で取り扱っているようです。

※係でもスタジオ用に用意します。

### 「プライベート製作講習会」の修了者が、12月よりプライベートチームに参加!

7月からスタートした「プライベート図書製作講習会」(全15回)が11月7日(水)に終了します。

この講座の修了者は盲人情報文化センターの「プライベートチーム」に所属して活動していきます。チームへの参加は、今年の12月12日(水)13時半からの定例勉強会からになります。現、「プライベートチーム」のみなさんよろしくお願ひします。

※花の写真は今夏、白山で撮りました(清水)